

社会連帯による次世代育成支援に向けて
「次世代育成支援施策の在り方に関する研究会」報告とまる

子育て支援事業の充実に向け検討してきた、厚生労働省の「次世代育成支援施策の在り方に関する研究会」が、研究の成果を報告書にまとめました(※)。

本報告書では、核家族化の進行や就労環境の変化、近隣関係の稀薄化や歯止めがかからない少子化による、確実な「人口減少社会」の到来などを視野に入れながら、「社会連帯による子どもと子育て家庭の育成・自立支援」を基本理念として掲げています。また、(1)普遍化・多様化、(2)総合化・効率化、

(3)家庭と地域の「子育て力」、(4)出生から青少年まで年齢に応じたきめ細やかな施策、(5)専門性の確保)の基本的方向に沿って、子育て支援施策の量的、質的拡充を図ることが適当だとしています。

そうした上で、今後、地域の実情に応じた子育て支援が求められていく中で、子育て支援施策の財源構成の見直しと、新たな財源確保に向けた枠組みの構築等を掲げ、新たな「次世代育成支援システム」を創設することを提案しています。

※http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/sesaku/syoushika/030807-1.html

事業所等の在り方(「保育」のみ抜粋)

- 保育所利用者の普遍化、介護など周辺分野における改革動向を踏まえ、保育所利用の在り方について従来の市町村委託方式から、保護者と保育所が直接向き合うような関係を基本とする仕組みへと見直しを検討すべき
- 市町村が引き続き負うべき責任・役割として、保育の供給体制の整備や質の向上を図るとともに、保育所利用の必要性や優先度の判断などに関する新たな仕組み(要保育認定)を導入し、実施に当たることが必要。なお、諸外国で導入された自由価格制を前提としたバウチャー制度の我が国への導入は不相当
- 待機児童解消に向け、保育の供給体制の充実に図るとともに、官民の役割分担や運営の効率化の観点から、公設民営方式の推進や公営保育所の民営化等を進めていくことが適当
- 保育所の子育ての専門性を活かす観点から、保育所が地域の子育てを支え、助ける存在として地域に開かれたものとなることともに、ソーシャルワーク機能を発揮していくことが必要
- 育児休業施策と保育施策を総合的に捉え、整合性の取れた取組へと変えていく観点から、1歳児保育の受け入れの推進を図るとともに、育児休業制度において、その取得期間(現行子どもが1歳に達するまで)の取扱いの弾力化が行われることを期待
- 保育所等の就学前の子どもの育ちを支える施設の費用については、施設ごとの機能・役割に応じた適切な形で、公的支援を行っていくことを基本に考えるべき
- 保育所運営費用については、地方公共団体の財政状況等によって取組に支障が生じることのないよう、介護保険制度のような国と地方公共団体を含め国民全体で支える仕組みも選択肢として検討すべき。

※この他、「地域子育て支援」「経済的支援」の在り方を示している

読者の声

—公共の秩序と善良な風俗—

最近通勤途上で、ふと「日本人も随分と個性豊かになったなあ」と感じることも多くなった。

日本人の髪の色は黒であり、年とともに白くなるのが当たり前であつた気がするが、最近では、金髪はもちろん赤や黄、緑に紫、まさに多色である。服装もはみ出しや破れたズボンなんて当たり前、奇抜で個性豊かである。言葉はチンパンカンパンで意味不明である

が、よくよく聞いてみると日本語のようなので、日本人には違いないようだが、正直どれもこれも私にはなかなか馴染めない。

そんな中、先日、金髪で目の色は青、鼻も背も高く、明らかに「外国人」とわかる人を中心とした数人が、「公序良俗」の話に熱を上げていたのを耳にした。

「電車内で空き缶や新聞・雑誌等の処理、携帯電話の使用方法についてのアナウンスを、一日のうち何度も耳にするが全く無視されている。また高速道路ではスト

レス発散と称して、他人の迷惑や危険を顧みず暴走し、街中では大音量で得意げに車を操り、『自分さえ良ければいい』などと平気で口にする。日本人は、元来公序良俗に反することなく、礼儀作法も外国人が目を見張るほどきちんとなされているはずでは? 一体ドウナツテルノ?」と、まことに正しく流暢な日本語で熱弁していた。

私も全く同感である。日本の良さに憧れて来日する外国人の方が日本人らしく、日本文化の良いところを多く知っていることに、恥ずかしさを覚えずにはいられなかった。

自由で豊かな時代と言われる今日にあって、古き良き時代の姿を懐かしんでしまうのは、やはり年のせいなのであろうか。

(勇作)

▶投稿をお寄せください◀

「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや本紙内容へのご意見ご感想でも結構です。分量は700字程度。匿名でも結構です。



郵送：〒221-0844
横浜市神奈川区沢渡4-2
FAX：045-312-6302
Mail：kikaku@jinsyakyo.or.jp
いずれも「県社協企画課タイムズ係」と明記のこと